

令和5年度第1回和坂小学校環境学習（2023.6.1）

1,日時：令和5年6月1日9時～12時 晴曇り

2,場所：兵庫県立明石公園 西芝生広場

3,参加者：（公財）兵庫県園芸・公園協会1名、
和坂小学校66名（先生5・児童61）、
まちづくり協議会サポーター6名、
桜守ボランティア6名、
NPO 法人兵庫県樹木医会4名、

4,内容：ソメイヨシノの観察会



①主幹枯れの桜 ②クビアカツヤカミキリの防除対策木 ③不定根・ヒコバエの桜



右中央に不定根 腐朽した幹に侵入したアリの巣 ④土手上にある元気な桜

(1) 主幹枯れしたソメイヨシノの観察

回復して元気になった。理由は？

- ・葉（葉柄、葉脈、鋸歯、密腺等）は委縮や虫食いがほとんどなく正常である。
- ・日当たりが良く枝葉密度が高い。
- ・幹・根元は、コケ落としをしたため、地衣類の発生も少なく、樹皮が健全である。
- ・日当たりが良く胴吹き、ヒコバエ（葉色はやや薄い、大きな葉を茂らせている）により樹勢が回復している。

しかし、今後胴吹き及びヒコバエは2～3本程度の枝に調整する必要がある。

- ・竹割挿入法等を用いた土壌改良（土壌硬度 26mm→16mm）により改善し、根茎の発達が良いと考えられる。

(2) ソメイヨシノに発生するクビアカツヤカミキリ（特定外来生物）の対策木の観察
クビアカツヤカミキリの確認方法と対策を考えよう。

- ・クビアカツヤカミキリは特定外来生物に指定され、中国原産で、首が赤く、体は黒色でつやがあり、ジャコウの香りを持つことで見分けられる。雄の触角は雌より長く、体調より長い。

サクラ、ウメ、モモ等の果樹の樹幹に穴（直径約1cm）をあけ著しいフラスを排出し、枯死させる害虫である。

- ・主幹に隙間なくネットを張ることは、クビアカツヤカミキリ等の侵入・発生を抑える有効な方法である。

- ・カミキリムシ類やコスカシバ（樹脂、フラスが見られる）の侵入痕跡を確認しよう。

※クビアカツヤカミキリを見つけたら、捕まえないで樹木医、先生に報告しよう。

(3) 不定根、ヒコバエが見られるソメイヨシノの観察

ソメイヨシノが回復し、元気になる理由は？

- ・腐朽した樹幹には不定根が見られ、不定根を活用処置（暗くして水分を保つ）と根が伸長し、樹勢が回復する。

- ・先端枯れ等により樹冠の日当たりが不足の場合は、ヒコバエにより復活することができる。

(4) 土手の元気なソメイヨシノの観察

土手の上に見られるソメイヨシノはどこが元気でしょう。

- ・枝葉密度が高い。（光合成が十分にできる）

- ・先端枯れがない。（光合成が十分にできる）

- ・樹形が良い。（樹木の特性に応じた自然樹形に近い場合が光合成量が多い）

- ・葉色が濃い。（光合成が活発である）

(5) ソメイヨシノの話（明石公園桜守ボランティア代表）

- ・ソメイヨシノは江戸時代に江戸の染井吉野村で植木職人が作り出したといわれている。

- ・ソメイヨシノはエドヒガンとオオシマザクラの雑種が交雑してできた単一の樹を始源とする栽培品種のクローンである。

- ・接ぎ木で増やしている。

- ・葉の展葉前に一斉に開花し、美しいことから日本で、最も多数植栽されている桜である。開花を気候の指標等としても使われている。

- ・ソメイヨシノの寿命は60年程度とされていたが、気候の厳しい青森で、環境適応管理により120年程度まで寿命が延びることがわかってきた。

(6) 桜守ボランティアの話（明石公園桜守ボランティア3名）

- ・和坂小学校のソメイヨシノの観察・育成を進めて寿命を延ばす育成を皆で進めましょう。

- ・枯死したソメイヨシノは、接ぎ木、挿し木、桜の種から育てる取り組みをしましょう。